

シラバス詳細

IPE科目															
授業科目名															
カリキュラム2019															
I P W演習															
Interprofessional Work : Seminar															
No.	時間割番号					開講時期					曜日・時限				
1	200300401					前期					月曜3限				
2	200300402					前期					月曜3限				
ナンバリング															
B_IPE3200															
配当年次 および 必須（◎）・選択（○）の別															
No.	看護		理学	作業		社福		福祉	行動		検査	口腔	教職		
		編入				専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻			
1	3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎			
2	3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎			
履修における注意点・履修条件等															
多学科による混成チームで、模擬IPWとして演習に取り組めます。授業は、【前半】(4/8～6/3)と、【後半】(6/10～7/29)に分かれます。学籍番号が“偶数”の場合は【前半】、学籍番号が“奇数”の場合は【後半】になります。前半は「IPW演習①」、後半は「IPW演習②」にて履修登録して下さい。なお、実習等の理由により学科教員と相談し、前半・後半を変更している場合もあります。															
科目責任者		久保田 章仁			単位数・時間数			1 単位 15 時間		授業形態		演習			
科目担当者		吉永亜子、柴田亜希、辻玲子、小野仁美、高柳雅朗、久保田章仁、上原栄一郎、髙末憲子、保科寧子、岡田茂治、田村佳士枝													
科目に関連する実務経験		○	各々専門領域における臨床現場での実践経験を有している。												
授業の概要															
多学科混成チームで取り組むIPW演習は、保健医療福祉、教育の多職種による模擬課題や事例を素材として、利用者を尊重した問題解決のプロセスを通じ、多職種理解や多職種連携で重要な葛藤（違和感や困難さなどでも可）や合意形成など、IPWに求められる能力を体験的に修得する科目です。															
学習のねらい															
本科目は、一連のIPE科目（ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論）での学び、すなわち保健医療福祉、教育におけるIPWを支える価値観や態度、スキルなどを統合させ、問題解決のプロセスと同時にチーム形成の深化を体験することを目指とします。毎回のチームと個人によるリフレクションを活用し、IPWでの学びを意図的な試みとして、4年次のIPW実習へと発展させます。															
関連するディプロマポリシー															
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域			
○			○			○			○			○			
授業の到達目標及び授業概要															
回	授業の到達目標					授業概要					担当教員		講演者		
1	・利用者を尊重したチームで目指すべき目標を共有できる。 【担当教員】 (看護) 辻玲子 柴田亜希 小野仁美 田村佳士枝 (理学) 久保田章仁 (作業) 上原栄一郎 (健康) 吉永亜子・岡田茂治 (社福) 髙末憲子・保科寧子 (共通) 高柳雅朗					第1回（前半：4/8 後半：6/10）ガイダンス：講堂 （事前にオンデマンド内容の確認について周知するため、要メール確認） ・目標や授業概要については、オンデマンドで確認する ・チーム内での自己紹介、アイスブレイク ・事例の共有・課題と、次回まで調べてくることの確認					久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、髙末、保科、岡田、田村		☐		
2～5	・利用者ニーズを中心にすると共に、連携から協働、さらに統合された支援やサービスの違いを認識したディスカッションを実施できる。 ・求められている各学科で養成する専門職性などの相互理解を深める。 ・葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求められる能力を理解できる。 ・チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり方を理解した上で、4段階でのリフレクションの実施を目指す。					小講義室にてグループワーク 第2回：4/15 6/17 第3回：4/22 6/24 第4回：5/6 7/1 第5回：5/13 7/8 模擬課題や事例を共有することから始め、利用者のニーズを尊重した問題解決のプロセスを体験する。 その過程にて生じた葛藤（違和感や困難さなどでも可）に対しては、共感的コミュニケーションや利用者ニーズを尊重した前向きなディスカッションにより、相互理解を深めつつ、相互支援しながら合意形成を図ること、効果的な4段階でのリフレクションなど、					久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、髙末、保科、岡田、田村		☐		

		IPWに必要な能力を修得する。 授業内では教室でのディスカッションやワークのみとなるため、毎回、次回までに各自が調べておく事項などを役割分担し、共同作業の方法を実践する。		
6	・チーム活動の体験を通じて、ケアプランのポイントや葛藤・合意形成について共有し、その多様性を理解する。	第6回（5/20 7/15） 報告会とフィードバック	久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、鳶木、保科、岡田、田村	☐
7	・チーム活動の体験や報告会をリフレクションすることにより、本科目の目標について理解を深める	第7回（5/27 7/22） フィードバックを受けてのまとめ・複数のリフレクション方法（4段階は必ず）を実施し、理解を深める ※欠席すると、グループ全員のリフレクションに影響がでるため、欠席者にはグループへの対応と共に、課題を求める。	久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、鳶木、保科、岡田、田村	☐
8	・チーム活動の体験を通じて、学びの統合化や今後の自己における学習課題を明確にする。	第8回（6/3 7/29） レポートへの質問	久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、鳶木、保科、岡田、田村	☐
授業計画に関する特記事項				
※ガイダンス(第1回)は講堂で行い、ガイダンス終了後各教室に移動します。ガイダンス前にオンデマンドでのガイダンス内容や留意事項を確認して参加する。オンデマンドのガイダンス内容については、メールにて周知するためメールを確認しておくこと。Webclassは共通全体（①②）に設定する。※第2回以降は各グループ毎に教室に分かれて参加する。出席登録はWebClassにて行う。なお、30分以上の遅刻は欠席（3回にて成績評価の対象外となる）となるので、留意すること。				
教科書				
教科書：「IPWを学ぶ 利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携」中央法規				
参考書、教材等				
※以下は、IPW論の参考図書です。 マイケル・A・ウェスト著・下山晴彦監訳（2014）「チームワークの心理学」東京大学出版会 エイミー・C・エドモンドソン著・野津智子訳（2014）「チームが機能するとはどういうことか」英治出版 野中猛ほか著（2007）「ケア会議の技術」中央法規出版				
評価方法				
グループ活動の状況や毎回のリフレクション、個人のレポートを総合的に評価します。				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
地域（現場）にて取り組む4年次のIPW実習は、多分にIPW演習での体験に影響されると考えられます。現在、いかなる領域に就職しようとも、多領域での連携・協働が求められています。 全学科の学生が、学習目標を達成できるよう、自らやチームに起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チームでのやりがいを実感できることを期待しています。なお、4年次のIPW実習では、IPW演習以外の教員が多く担当するため、各自が率先して4段階でのリフレクションを実施できるよう、専門科目やサークル活動等のリフレクションでも活用することを推奨します。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2024/03/12 12:17				
			印刷	閉じる

シラバス詳細

IPE科目														
授業科目名														
カリキュラム2019														
I P W演習														
Interprofessional Work：Seminar														
No.	時間割番号					開講時期					曜日・時限			
1	200300401					前期					月曜3限			
2	200300402					前期					月曜3限			
ナンバリング														
B_IPE3200														
配当年次 および 必須（◎）・選択（○）の別														
No.	看護		理学	作業		社福		福祉	行動		検査	口腔	教職	
		編入				専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻		
1	3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎		
2	3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎		
履修における注意点・履修条件等														
多学科による混成チームで、模擬IPWとして演習に取り組めます。授業は、【前半】(4/8～6/3)と、【後半】(6/10～7/29)に分かれます。学籍番号が“偶数”の場合は【前半】、学籍番号が“奇数”の場合は【後半】になります。前半は「IPW演習①」、後半は「IPW演習②」にて履修登録して下さい。なお、実習等の理由により学科教員と相談し、前半・後半を変更している場合もあります。														
科目責任者	久保田 章仁				単位数・時間数		1 単位 15 時間			授業形態		演習		
科目担当者	吉永亜子、柴田亜希、辻玲子、小野仁美、高柳雅朗、久保田章仁、上原栄一郎、髙末憲子、保科寧子、岡田茂治、田村佳士枝													
科目に関連する実務経験	○		各々専門領域における臨床現場での実践経験を有している。											
授業の概要														
多学科混成チームで取り組むIPW演習は、保健医療福祉、教育の多職種による模擬課題や事例を素材として、利用者を尊重した問題解決のプロセスを通じ、多職種理解や多職種連携で重要な葛藤（違和感や困難さなどでも可）や合意形成など、IPWに求められる能力を体験的に修得する科目です。														
学習のねらい														
本科目は、一連のIPE科目（ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論）での学び、すなわち保健医療福祉、教育におけるIPWを支える価値観や態度、スキルなどを統合させ、問題解決のプロセスと同時にチーム形成の深化を体験することを目標とします。毎回のチームと個人によるリフレクションを活用し、IPWでの学びを意図的な試みとして、4年次のIPW実習へと発展させます。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域		
○			○			○			○			○		
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標					授業概要					担当教員		講演者	
1	・利用者を尊重したチームで目指すべき目標を共有できる。 【担当教員】 (看護) 辻玲子 柴田亜希 小野仁美 田村佳士枝 (理学) 久保田章仁 (作業) 上原栄一郎 (健康) 吉永亜子・岡田茂治 (社福) 髙末憲子・保科寧子 (共通) 高柳雅朗					第1回（前半：4/8 後半：6/10）ガイダンス：講堂 （事前にオンデマンド内容の確認について周知するため、要メール確認） ・目標や授業概要については、オンデマンドで確認する ・チーム内での自己紹介、アイスブレイク ・事例の共有・課題と、次回まで調べてくることの確認					久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、髙末、保科、岡田、田村		☐	
2～5	・利用者ニーズを中心にすると共に、連携から協働、さらに統合された支援やサービスの違いを認識したディスカッションを実施できる。 ・求められている各学科で養成する専門職性などの相互理解を深める。 ・葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求められる能力を理解できる。 ・チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり方を理解した上で、4段階でのリフレクションの実施を目指す。					小講義室にてグループワーク 第2回：4/15 6/17 第3回：4/22 6/24 第4回：5/6 7/1 第5回：5/13 7/8 模擬課題や事例を共有することから始め、利用者のニーズを尊重した問題解決のプロセスを体験する。 その過程にて生じた葛藤（違和感や困難さなどでも可）に対しては、共感的コミュニケーションや利用者ニーズを尊重した前向きなディスカッションにより、相互理解を深めつつ、相互支援しながら合意形成を図ること、効果的な4段階でのリフレクションなど、					久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、髙末、保科、岡田、田村		☐	

		IPWに必要な能力を修得する。 授業内では教室でのディスカッションやワークのみとなるため、毎回、次回までに各自が調べておく事項などを役割分担し、共同作業の方法を実践する。		
6	・チーム活動の体験を通じて、ケアプランのポイントや葛藤・合意形成について共有し、その多様性を理解する。	第6回（5/20 7/15） 報告会とフィードバック	久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、鳶木、保科、岡田、田村	☐
7	・チーム活動の体験や報告会をリフレクションすることにより、本科目の目標について理解を深める	第7回（5/27 7/22） フィードバックを受けてのまとめ・複数のリフレクション方法（4段階は必ず）を実施し、理解を深める ※欠席すると、グループ全員のリフレクションに影響がでるため、欠席者にはグループへの対応と共に、課題を求める。	久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、鳶木、保科、岡田、田村	☐
8	・チーム活動の体験を通じて、学びの統合化や今後の自己における学習課題を明確にする。	第8回（6/3 7/29） レポートへの質問	久保田、吉永、柴田、辻、小野、高柳、上原、鳶木、保科、岡田、田村	☐
授業計画に関する特記事項				
※ガイダンス(第1回)は講堂で行い、ガイダンス終了後各教室に移動します。ガイダンス前にオンデマンドでのガイダンス内容や留意事項を確認して参加する。オンデマンドのガイダンス内容については、メールにて周知するためメールを確認しておくこと。Webclassは共通全体（①②）に設定する。※第2回以降は各グループ毎に教室に分かれて参加する。出席登録はWebClassにて行う。なお、30分以上の遅刻は欠席（3回にて成績評価の対象外となる）となるので、留意すること。				
教科書				
教科書：「IPWを学ぶ 利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携」中央法規				
参考書、教材等				
※以下は、IPW論の参考図書です。 マイケル・A・ウェスト著・下山晴彦監訳（2014）「チームワークの心理学」東京大学出版会 エイミー・C・エドモンドソン著・野津智子訳（2014）「チームが機能するとはどういうことか」英治出版 野中猛ほか著（2007）「ケア会議の技術」中央法規出版				
評価方法				
グループ活動の状況や毎回のリフレクション、個人のレポートを総合的に評価します。				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
地域（現場）にて取り組む4年次のIPW実習は、多分にIPW演習での体験に影響されると考えられます。現在、いかなる領域に就職しようとも、多領域での連携・協働が求められています。 全学科の学生が、学習目標を達成できるよう、自らやチームに起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チームでのやりがいを実感できることを期待しています。なお、4年次のIPW実習では、IPW演習以外の教員が多く担当するため、各自が率先して4段階でのリフレクションを実施できるよう、専門科目やサークル活動等のリフレクションでも活用することを推奨します。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2024/03/12 12:17				
			印刷	閉じる